

読書好きを育む環境づくり 応援研修会

本研修会は、こどもが読書に興味を持ち、親しむための取組について知識・理解を深め、技能を習得し、今後の実践に活かすことと、管内関係者のネットワークの構築を図ることを目的に実施しました。当日は、管内の読書活動の推進に携わる関係者52名が、他の参加者と交流しながら学びを深めました。

<講話・演習>

「こどもと読書をつなぐかけはし～絵本セラピーを通して～」

九州大谷短期大学 准教授 梅野 智美 氏

講話・演習では、梅野氏による「絵本セラピー」を実際に体験し、その魅力や効果について学びました。

○梅野氏による絵本セラピー（プログラム「ちょっと立ち止まってみませんか？」）

- ①「うかぶかなあ？しずむかなあ？」：簡単なクイズで場を和ませる交流
- ②「おにぎり」：自己紹介に血液型やおにぎりに入れる具材など「＋！」の内容の交流
- ③「ホームランを打ったことない君に」：絵本を聞いて、感じたことを自由に交流
- ④「たいせつなこと」：それぞれ自分が考える大切なことを交流
- ⑤「じかん屋テンペリア」：物事を立ち止まって考えることの重要性について交流



本を読んでもらう心地よさや安心感を肌で感じるとともに、心豊かな癒しの時間を過ごしました。

<グループワーク>

「チャレンジ！ミニ絵本セラピー」

グループワークでは、参加者が持参した絵本を活用し、実際に「ミニ絵本セラピー」を行いました。

持参した絵本を読み合う中で、読み手が変わると絵本の印象や感じ方も異なることを体験しました。

また、感想の交流を行い、1冊の絵本に対する多様な捉え方に触れることで、その奥深さを改めて実感し、今後の活動に活かすための貴重なヒントを得ることができました。

さらに、保育・学校関係者、図書館職員、読書ボランティアなど異なる立場のメンバーでグループを編成することで、持参した絵本をきっかけに会話が弾み、自分が気づかなかった捉え方を知るなど、管内関係者同士の横のつながりを深める貴重な機会となりました。



参加者にとって本研修会は、絵本の新たな魅力や多様な視点に気づく貴重な機会となり、今後の読書環境づくりに向けた実践意欲を高める、非常に有意義な時間となりました。

【参加者アンケート】（抜粋）

- ・人によって読み方や感じ方が異なり、1冊の絵本をたくさん楽しむことができました。
- ・初めて会う方ばかりでしたが、絵本をきっかけに話が広がり盛り上がりました。自分では考えない視点や工夫について知ることでもでき、絵本の活用の幅が広がったように感じました。
- ・絵本の読み聞かせの楽しさや、ワクワク感を味わい、自分が気づかなかった視点や工夫、絵本に対する印象が変わりました。今後の絵本の読み聞かせの時間をより大切にしたいと思いました。